

# 平成28年度 第1回 釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 次第

日時:平成28年7月15日(金)

午前10時30分～午後12時20分

場所:釧路市役所 防災庁舎5階

災害対策本部室

## 1. 開会

## 2. 委嘱状交付

<蝦名市長より、各委員へ委嘱状交付>

## 3. 市長あいさつ

## 4. 委員紹介

## 5. 釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議について

- ・事務局より、【資料1】「釧路市まち・ひと・しごと創生推進会議 設置要綱」と【資料2】「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進体制」をもとに説明。
- ・会議を原則公開として、議事内容は市のホームページに掲載することを確認。
- ・委員11名中8名出席につき、過半数の委員の出席があったため、当会議成立を確認。

## 6. 議長及び副議長船員

- ・互選により、佐野委員を議長、篠田委員を副議長として選出された。

## 7. 議事

### (1) 釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略について

- ・事務局より、【資料3-1】「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の全体像」及び【資料3-2】「釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をもとに説明

委員より説明内容について質問あり

<以下、質疑応答 【○…委員 ■…釧路市】>

- 総合戦略に記載されている人口推計が、各推計とも平成32年(2020年)を境にすべて減少するという形になっている。経年の変化であればもう少し緩やかに減少していくとも思われるが、このような形になっているのは特殊な要因があるのか。
- 特殊な要因はない。ご質問のあった人口推計は北海道総合研究調査会(通称HIT)の推計に基づいており、この推計は死亡率・出生率と、移動率を勘案して行っている。ご質問のあったグラフの推計については、社会移動といわれる転出超過と転入超過が

現況と変わらずに進んでいくとどうなるか数式を用いて計算している。平成27年から32年までの間の落ち幅が低いというのは、移動率が大きく変化していないからであるが、それを5年ずつ積み上げていくと、徐々に大きくなっていくため、平成32年から40年に向かって落ち幅が大きくなる形になる。これはあくまでも数学的に算出した結果あり、実際は社会情勢の変動等も当然あるために違う形になる可能性もある。しかし、HITの推計のような人口減少を食い止め、市の将来展望にもっていくために総合戦略があり、重要な視点の一つとして若者の転出を少しでも解消することを考えているが、特殊な要因が一つだけあって人口減少が進むということではないことはご理解いただきたいと思う。

<以下、質問なし>

## (2) 鉚路市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗管理について

- ・事務局より、【資料4】「総合戦略の施策体系とKPI」、【資料5】「まち・ひと・しごと創生に関する国からの支援」、【資料6】「地方創生各種交付金における推進会議の役割」【資料7】、「平成27年度 地方創生先行型交付金事業の概略とKPI」にもとづいて説明

<質問なし>

## (3) 意見交換

委員により、主に【資料7】「平成27年度地方創生先行型交付金事業の概要とKPI」を中心に意見交換を行った。

<以下、各委員意見>

【○…委員 ◎…委員長 □…市長 ■…事務局 △オブザーバー】

- 総合戦略において様々な事業を考えていると思うが、資料7を見たところ、今まで鉚路市で行ってきた事業とあまり変わらないと感じた。これらの事業で人口減が抑制され、安心して暮らせるまちづくりが形成されていくかと少し疑問に思う。
- セミナーに関してもイベントにしても、開催して人を集めて終わりという感じがするものが多く、その先も面倒を見るつもりでないと、人材育成というのはなかなか出来ないと思うし、そのためには民間の力を活用することが必要である。
- 将来展望などを見据えて事業を行う必要があり、鉚路市では楽天(株)と連携して新しい商品開発をする事業を行ったようだが、それが爆発的なヒット商品になって生産ラインが増え、雇用が創出されることが鉚路の良いまちづくりにつながると思うが、そういう話は聞こえてこなく、また何かやって終わりというものになっていると感じるので、将来展望、継続性を考慮してほしい。

- 質問したいのだが、インターネットショップの講座の人气がなく、販売が伸びていない理由はなにか。
- 釧路市における中小企業の経営者は高齢の方が多い傾向があることから、周知・案内などを行ってもインターネットに対して若干アレルギーがあると思われる。この部分については委員がおっしゃったような長期的で継続的な取り組みが必要になると考えている。ただし、初年度事業には非常に高い関心を持っている方々が集まっており、実際にコミュニティも形成されて横のつながりが出来ている。今後は、インターネットの利用に成功した人が出てくれば、その成功した話を聞きつけて取り組む事業者が出てくると思う。行政も主体となって周知に取り組み、同業者の成功例、先行事例を見せていくことが効果的だと思う。今年は1年目ということで、予定していたような実績はお見せできない状況にあるが、先ほど委員からご指摘のあったとおり、この事業は継続して行っていくことでこれから伸ばしていけるのではないかと思っている。
- インターネットの活用は高齢の事業主には厳しいだろうし、ファンドにおいてもそうだが、若い人達が参加しやすいものだと思うので、幅広に行うよりも若い事業者をターゲットにしていくべきかと思う。
- ファンドに関して質問だが、採択されて事業を行っているのは1者くらいと思っているが正しいか。
- ファンドは平成27年度に3事業者採択されており、今まさに商品開発を行って一部販売している事業者が一つ、まだ販売までは至っていないがパッケージのデザインなどを発注している事業者が一つ、水産加工業者で原材料調達の時期によりファンド組成の準備段階である業者が一つとなっている。
- ファンド組成は制度的に難しいところもあるが、先ほどお話のあった楽天等でのWebでの販売と違う点としては、様々な方からお金をいただいてファンドを組成するということが販路拡大の一つの手法であり、事業者にはそのメリット、デメリットを理解して、多くのご参加をいただければと思っている。
- インターネットでの事業は釧路に住まわずにできるものであり、現在都会で働いている人も、ICTを活用した事業が成功すればこちらに戻ってくる可能性があるため、注力すべきものと思う。
- 釧路はいつも宣伝下手、広告下手な地域だと言われており、今行っているふるさと納税もかなり良くなったと思うが、他の地域と比較すると、良い素材があるのにその良さを活かせていないと感じる。
- ふるさと納税の贈呈品がそのまちの顔の商品に見えることがあるので、そういった面とICTの活用をもって事業展開できるよう取り組みを行ってほしい。
- 現在、若い女性は働く方がほとんどだと思うし、観光産業が伸びてきていることから土日に仕事という方も増えてくると思うが、土日に子供を預けられるというところが少ない。土曜日に預けるにしてもかなり前から予約が必要であり、その中でも抽選が行われて預かってもらえず、ましてや日曜日は保育園には預けられず、仕事

を持つ母親というのは本当に苦勞しているのでその辺をしっかりと支援するようにお願いしたい。

- 平成27年度地方創生先行型交付金事業の概略ということで、今回の資料には単年度の重要業績評価指標（KPI）を入れたと思うが、KPIの数値指標というのはPDCAサイクルを回すために設けており、実際の事業の事前管理や準備事業であってはKPIを受け止めきれない場合もあると思うので、複数年にわたる継続事業についてはあまり単年度の実績にこだわらなくともよいと思う。
- 事業にも段階があるので、今年度の段階でどの程度達成できたか、次に前年度の反省を行い、次年度の取り組むべきこと、目標を定めて段階的に行って、次のアクションにつなげていく形にする計画というものが必要だと思う。
- 例えば、ターゲットとする就業者数を増やすために事業参加者の資格取得者数の割合をKPIに置いたというところであるが、まずはこの数を増やすことが大事であって、割合より実際に資格を取得した人の数を増やすということが重要かと思う。
- 女性の活躍促進事業で、KPIの指標がワークライフバランスや男女平等参画をテーマにした講演会の述べ参加者数200人で今年は200人を超える実績ということであったが、例えば、来年度は500人を指標とし、そして次の年はその方たちがどうなっているかということも追跡してみる、という形でPDCAサイクルを回していかなければならないと思う。
  
- この会議に出席する前に、釧路地域企業立地推進協議会という会議に出ていたが、そこでも話題になったのが、行政が何をしようが人が集まらないということであった。
- 色々の業界で募集の要望があるにもかかわらず、管内で色々と話を聞いても人材不足が顕著だとの話を聞く。
- 単年度の指標としての部分も含めて、新規就業者数をどうやって増やしていくかという部分を具体的に皆で考えていくべきと思う。
- 地域総合等支援事業は「くしろ応援ファンド」をネットでやるのも良いと思うが、先日、釧路出身の方が取り組まれている地域クラウドというものに参加させていただいた。その内容は、この地域の若い人達が様々な取り組みを発表し、それに対して応援代を出すというものであり、そこで多種多様な企業があるということを知った。民間で行っているものではあるが、行政としてもこういう取り組みにかかわっていくのもいいのではないかという気もする。

- 平成27年度地方創生先行型交付金事業の概略をみると、今までやっていた事業をこの交付金に乗せただけとしか見えない部分が多々ある。
- また、抜本的に事業を組み立ててというよりは、まず事業の交付金を貰うために間に合わせたイメージでしかない。
- 資格取得の支援事業の話が出ていたが、その資格を持った方が資格に関係する業種に就いても離職していくことが多いということから、根本的な理由が他にもあると思う。
- 離職の原因は賃金が安いという話が国からも出ていることから、釧路市一自治体で解決できる問題ではないと思うが、29年度以降の事業についてはしっかりとアイデアを出しながら事業の組み立てをしていただきたい。

- 子育て支援、子育て環境づくりについて、土曜日、日曜日等、働く環境に対しての子供達を預かる場が少ない。また、平日においても、小学生の児童館利用については拡大となり、学年を小学3年生から小学6年生まで引き上げていただいた部分には利用者としては感謝しているが、子育ての実態を見ると、働く母親達が仕事のスケジュールを組み立てる中で、保育園や幼稚園での預かり時間が午後7時までであるのに、小学生入った途端に児童館の閉館時間の午後6時に合わせて仕事を変えなければならないということに使い勝手の悪さを感じる。
- 近隣市町村がわざわざ釧路市に来てまで、自分の自治体の子育てメリットについての宣伝をして移住促進のPRをしている事実があるが、この部分に関して釧路市は何も手を出せていないと感じる。
- 人口減少を食い止める点で、子供達が「この釧路市に住んでいて良かった、大人になっても釧路市に残りたい」と思う子供たち育てていかなければならないが、子育て環境には課題が山積していると感じるので、出来るだけ前倒しで問題の解決を進めていくべき。
- 交流人口拡大推進事業の中のスポーツ合宿やゼミ合宿を行っているところで拡大について検討お願いしたい部分がある。小中学校等ではスポーツに関して非常に能力のある子や大会等で結果を出している子もいるが、高校に入るとなると他の地域にいる有名な指導者につこうと旭川や札幌に出て行ってしまいう子がいる。スポーツ合宿では実績のある方達が来るので、釧路の子供を育てるための指導者育成もこの合宿等にあわせて進めていただければ、子供達が釧路市に残ることにもつながると思う。

- KPIについての理解が不足して反省している。
- 単年度事業の内容について説明あった通りとは思いますが、この事業を通して最終目標として何がしたいのかということが資料の中から読み取れなかった。

- 地域の仕事の支援や女性の活躍という部分で言えば、若い人が進学で釧路市から出てしまって卒業しても戻ってこない現状にあり、一方、地元企業が新卒を募集しても採用にいたらないというミスマッチがここ1～2年前くらい続いていることから、今年はその顕著になるのでは思う。「仕事はあるがそれに適した人材が来ない」という状況は、今回市から示された事業では解決ができないと感じた。
  - 建設や介護という業種にかかわらず、仕事はあるのに若い人が戻ってこないのは何故なのかが分からない状況にあるのではないか。その辺を根本的に掘り下げた事業を考えていく必要があると思う。
  - 就職や女性の活躍という点では、業種によっては女性が就けない、出来ないということになっている仕事が地方にはまだ多いと思うが、そういったものの掘り起しや事業主の意識改革の必要があるのではないか。
  - インターネット等を使った通販事業については、確かに高齢の方に今からその技術を覚えてもらうのも厳しいと思うので、それを代行してもらう等中間に入ってもらい支援や考え方が必要でないかと思う。
  - インターネットで釧路市の中小企業が商業力をアップするために、一人でやっている事業主の方も企業同士のつながりの輪に加わっていただけるような間口の広いものを考えていくと、釧路市全体の流れになるのではないかと思う。
  - 楽天のレシピで商品化を行う事業について、レシピを募集していることは知っていたが自分の周りでは全く盛り上がっていなかった。ザンギ等のB級グルメのような盛り上げを画策しなければ、ただレシピをもとに商品開発したということで終わってしまうため、商品化した際には盛り上げる仕組みを考えてもらいたい。
- 
- 女性の就労に関わる団体に所属しているため、平成26～27年度の数字を注視させていただいたが、予算をかけている割には就労した女性の数が少ないことに驚いている。何百万円もかけて事業を行っているのに対して年間4年人の就職者数は少なすぎるし、考えが緩すぎると思う。確かに就労支援は一回きりのセミナーで何とかなるというのではなく継続的に行うことはわかるし、特に女性は複雑なものがあって根気よく徐々に進めていく必要はあるが、それにしても女性の活躍新事業は考えが甘すぎる。
  - 女性の就労等はずっとやり方があると思うので、もし計画を策定する時点で参加させていただければ、一緒に考えていくこともできると思うので、その際にお声をかけていただければ嬉しく思う。
  - 男女の考えについて、保育園の時間に「お母さん達」が働けない、ではなく、「親」が働けないという意識を作るため、「女性の活躍推進」という言葉自体がなくなるために私の所属する団体は活動してきているので、そのような意識向上につながる政策を考えていただければ有難い。
  - 長期滞在で釧路市に多くの人に来てもらうにしても、首都圏に出ている若者、色々

な釧路出身の方がいて、そういう人達を繋いでネットワークを作って釧路の良さを個々で発信しているのは多くみられるので、行政としてはそこにもっと踏み込んでいってほしい。

- 全体的な総合戦略について、統計上の一年のものだけに確定未確定に○×をつけるだけが、この戦略の実現にどうつながるのかが知り得ないというのが感想である。
  - 各論としては、事業等を構築した段階で最終的な人口減少にどうつながるのかというところが不明である。
  - KPIであった「ししゃもの単価を1.5倍に上げる」必要性を考えると、地域で稼げるお金を増やすことが目的となるが、原料費が下がってしまったことに伴って単価が下がってしまったことに対して、何故原料費が下がってしまったかを考えることは非常に重要だと思う。
  - 行政としてやるべきメニューが1～10まであったら全部やるのは難しく、目標に対して1～10のメニューのうち、どれが一番優先順位の高いものか、どれが一番目標に対して効果が高いのかということを考えることが大事だと思う。
  - 重点的に仕掛けていくもの、やることによって成果が高いと思われるものが見えてくると、目標と施策とのつながりが分るのかと思う。
  - さきほど他の委員からお話のあったように、自分の会社で小学校に上がることによって子供を預ける時間が変わってしまい、今まで効率的に仕事が出来ていたことができず、仕事を続けられないと悩む女性の社員がいた。話し合いの結果、会社として早い段階でバックアップすることで対処できたが、釧路市民であるため、学童保育の時間が短く、釧路市だと悩むことはなかったとの話もあったので、子育て環境というのは、労働力に直結する側面があると思う。
  - 釧路市では待機児童が1～2人との話を聞いているが、単に待機児童の問題だけではなく、それぞれの家庭環境や、あるいは保育・幼稚園、小学校に入ってから学童保育等と状況によって細かく違うため、行政が保育関連の施策をどう強めていくかによって、雇用の確保にも結び付くと感じている。
- 
- ◎KPIを利用して数値目標を評価することは非常に良いと思うが、これだけで評価するというのはちょっと危ない気がしている。本来KPIというのは自らコントロールできるものを指標に用いるのだが、今回のKPIというのは外部要因によって左右されるものが非常に多く入っていて、全く努力しなくても達成でき、逆に必死に努力しても達成できない可能性があるため、本質を見誤ってしまう気がしてならない。
  - ◎全体の目標を実現するために市として具体的にどういう取り組みをしたのかを説明してもらって、その取組が本当に充分なのかということはこの場で評価していただくが必要になってくるのではないかと感じる。

- ◎事務局からの説明では、何故 KPI の実績値が目標まで達しなかったのか、どうして達したのか、外部要因なのか、市として努力したのか、しなかったのか、民間が頑張ったのか、頑張れなかったのか、市の促す取り組みが出来たのか等という観点で分類わけなどして整理することにより分かりやすくなるし、次の取り組みに活かせるかと思う。
- ◎非常に良い総合戦略を作成したので、最優先課題や重点戦略、そして基本目標というのがそれぞれの取り組みで実現出来ているのかを、KPI だけで見るのではなくて KPI も含めて実現できるのかを検証していくことが必要になると思う。
- ◎オブザーバーからもご意見をいただきたい。

△北海道も本日提示された KPI を参考にさせていただき、また、今年度申請されている交付金の内容も参考にさせていただくのでよろしく願います。

◎市長からも一言いただきたい。

- 委員の皆様からの確なご意見を述べていただき感謝申し上げます。先行型交付金からスタートして、総合戦略と合わせて進めていったものを活用し、色々なものにチャレンジしていこうと考えている。KPI の後ろにはしっかりした目標があり、そこは意識していかなければならないと認識している。
- 委員から、セミナーなどの開催についてもご意見をいただいたが、私も同じく思っていたところで、人が集まったかではなくて、それがどういうことに結び付いたところが重要と思っているところだが、どうしても行政というのは単年度単年度で予算編成して事業を行っていくものであること、また人事異動で人が変わってしまって、うまく連続していかないところもある。しかしながら、まちづくりは続いていくものであるため、毎年、過去はどんなことをやったか、どういう考えであったかというところを振り返りながら進めていくことが重要と考えており、委員から頂いたご意見を参考にしながら、進めていきたいと思っている。

8. 閉会

(了)